

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2023年5月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ



※各マーケットコメントは4月28日(金) 9:00現在
※休日の実績は前営業日

◆ 今月の相場見通し

		4月27日現在 (矢印は3月末比)	5月の予想
USD	ドル・円 (円)	↗ 133.97	↘ 125.00 ~ 140.00
	日銀への関心は徐々に低下、米金融政策と金融システム不安が材料に		
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↗ 1.103	↗ 1.05 ~ 1.15
	ユーロ・円 (円)	↗ 147.71	↗ 135.00 ~ 155.00
利上げ継続で当面は底堅いが、やや楽観的すぎるようにも見える			
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↗ 1.250	↗ 1.10 ~ 1.30
	ポンド・円 (円)	↗ 167.46	↗ 155.00 ~ 175.00
利上げ継続がGBPを支援するが、経済へのストレスはかかっている			
AUD	豪ドル・円 (円)	↗ 88.86	↘ 80.00 ~ 95.00
	NZドル・円 (円)	↘ 82.38	↘ 75.00 ~ 90.00
RBNZは利上げ幅減速を見込む。世界景気減速懸念も引き続き重石			
株式相場	日経平均 (円)	↗ 28,458	⇒ 26,000 ~ 29,000
	底堅い展開が見込まれるが、高値警戒感から上値も限定的		
FRBの利上げ打ち止め観測に期待も、懸念も燦る	NYダウ (ドル)	↗ 33,826	↗ 32,000 ~ 35,000
	FRBの利上げ打ち止め観測に期待も、懸念も燦る		
長期金利	日本 (%)	↗ 0.455	↘ 0.38 ~ 0.48
	日銀新体制は緩和継続路線だが米金利上昇と円安に注意		
FRBは利上げを停止へ、金融環境の懸念事項は多く金利上昇しにくい	米国 (%)	↗ 3.520	↘ 3.00 ~ 4.00
	FRBは利上げを停止へ、金融環境の懸念事項は多く金利上昇しにくい		

◆ 今月の注目ポイント

FOMCは次回への示唆あるか、米債務上限リスクに注意

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気	○	【米経済動向】 米経済は足踏み状態にあるものの、前月発表された4月PMIは製造業・サービス業ともに上振れ好不況節目の50を上回るなど、景気底堅さへの期待も生じている。一方で米地銀動向や不動産市場など、ショック的な動きにつながるリスクへの警戒感も強い。米経済指標で足元の経済情勢を確認しつつも、こうしたリスク事象が発現しないか動向を見極める展開が続くだろう。
金融政策	◎	【FOMC/ECB】 5月FOMCでは0.25%の利上げがコンセンサス、市場では利上げ打ち止め観測も生じるなかで、次回以降への示唆があるか注目される。一方、ECBは内部で意見の相違も確認される。高インフレに対して0.5%利上げを支持する向きもある一方で、信用不安から慎重な対応を求める声も聞かれる。
政治その他	○	【米債務上限問題】 債務上限を巡る期限は早ければ6月上旬にも到来する可能性が指摘される。米国債のテクニカルデフォルトのリスクが意識され市場の波乱要素となる可能性。

◆ アジア通貨見通し

人民元・円	⇒ 18.90 ~ 19.50	ルピー・円	⇒ 1.58 ~ 1.68
バーツ・円	⇒ 3.85 ~ 3.95	ウォン・円	↘ 9.70 ~ 10.10
ルピア・円	⇒ 0.88 ~ 0.94		

◆ 今月の重要日程

1日(月) 米	4月ISM製造業	10日(水) 米	4月CPI
2日(火) 欧	4月CPI	11日(木) 英	BOE金融政策委員会
3日(水) 米	4月ISM非製造業	16日(火) 欧	23/1QGDP
3日(水) 米	FOMC(結果発表)	18日(木) 日	4月貿易統計
4日(木) 欧	ECB理事会(結果発表)	19日(金) 日	4月CPI
5日(金) 米	4月雇用統計	31日(水) 中	5月PMI

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

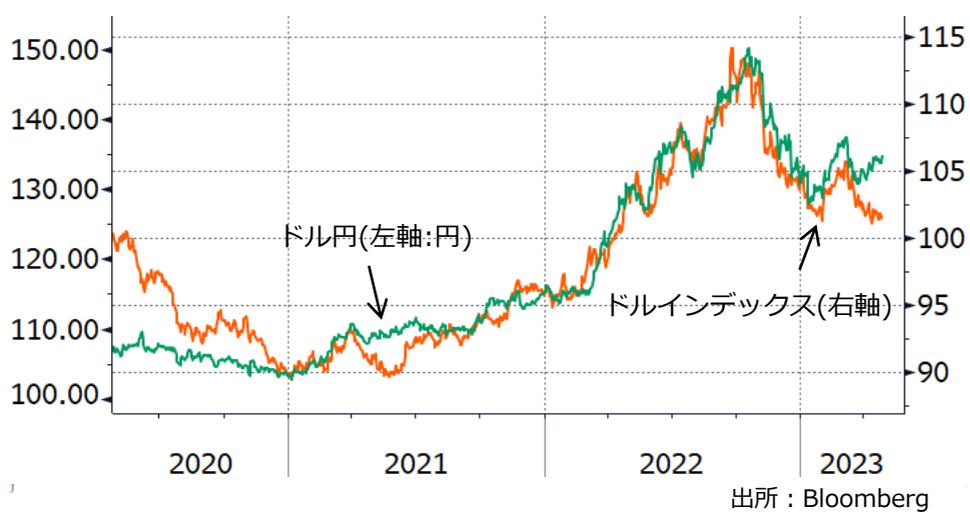
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2023年5月号)

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円	ドル円は下落	125.00 - 140.00円
------	--------	------------------

日銀への関心は徐々に低下、米金融政策と金融システム不安が材料に

4月のドル円相場は小幅に上昇した。3月の米銀破綻に端を発する米経済への過度な悲観が後退し、5月のFRB利上げ観測が復活したことがUSD高要因となった。また、日銀が月末の政策決定会合での政策変更には慎重な姿勢であること示唆する報道が各社から続いたことから、日銀に対する警戒感が後退したことも、JPY安要因として作用した。

5月は国内連休中のFOMCの注目度が高い。米国のインフレ率はいまだ高水準であり、利上げを継続すると見られるが、今後予想される銀行貸出態度厳格化の影響による景気減速・後退の可能性も高まっており、今回で最後の利上げになる可能性がある。また、米金融システムへの懸念が再燃する可能性もあり、状況次第では今回の利上げを見送る可能性もあるだろう。いずれにせよFOMC通過後は米金利に低下圧力がかかりやすく、ドル円の上値は抑えられるだろう。

日銀は4月の決定会合で主要な政策の現状維持を決定し、1年から1年半の期間での多角的レビューの開始を決定した。2025年度の物価見通しも2%未満とし、現状では物価安定目標の達成を見通せていない。レビュー期間中の大幅な政策変更の可能性は後退し、当面は日銀の政策変更は市場の関心から外れていく可能性がある。

ユ ー ロ



ユーロドル	ユーロドルは上昇	1.05 - 1.15ドル
ユーロ円	ユーロ円は上昇	135.00 - 155.00円

利上げ継続で当面は底堅いが、やや楽観的すぎるようにも見える

4月のEUR相場は対USD、対JPY、いずれも右肩上がりでの上昇となった。米銀破綻問題への懸念が一巡し、市場のリスクセンチメントが改善したことが追い風となった。FRBの利上げ観測は再び高まったとは言え、市場ではあと1-2回での利上げ停止と早期の利下げ転換の可能性が意識されている一方、ECBについては利上げ継続が見込まれており、欧米の金融政策の方向性較差がEUR高圧力となった。月末にかけて日銀の政策変更観測が後退する過程では、対JPYで8年振りの高値を付ける場面もあった。

5月のECB理事会では利上げ継続が決定されると見られるが、利上げ幅については前回から減速する可能性もあるだろう。仏中銀のビルロワドガロー総裁は「利上げの旅の大半を終えた」と発言しており、利上げの終着点を見極める段階に入っていると見られる。ECBの利下げは現状織り込まれておらず当面底堅く推移しそだが、欧州経済には不透明要素も強く景気減速により急速に下落トレンドに転換する可能性には注意が必要であろう。

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

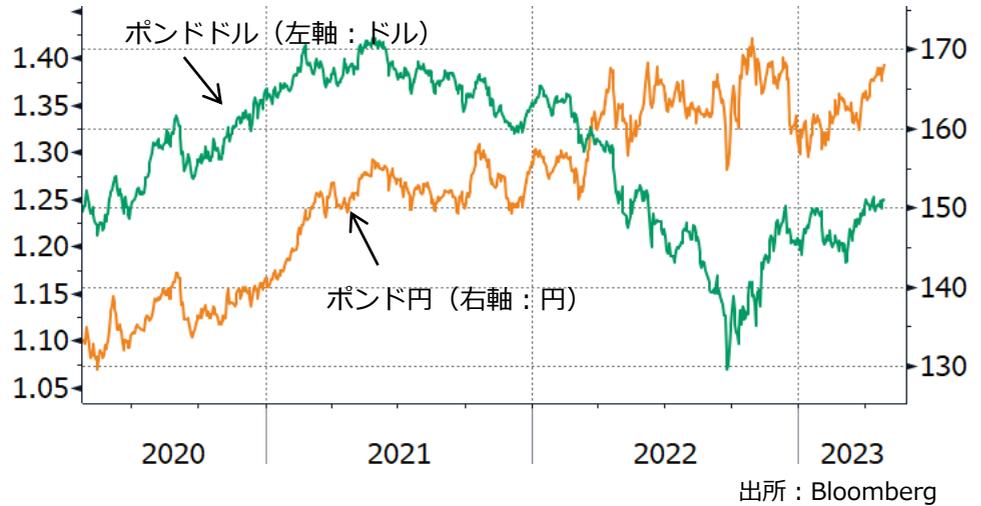
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2023年5月号)

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

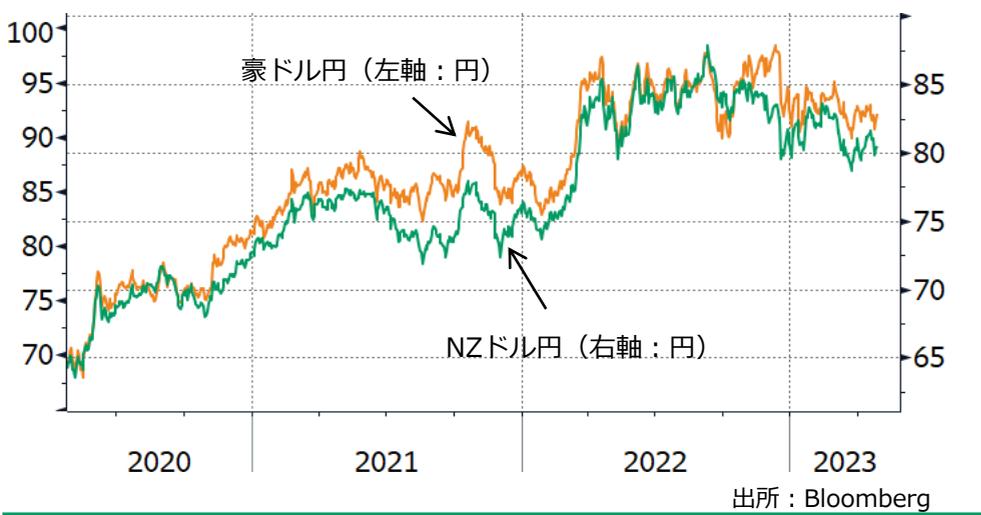
ポンド



ポンドドル	ポンドドルは上昇	1.10- 1.30ドル
ポンド円	ポンド円は上昇	155.00 - 175.00円

インフレ高止まり利上げ継続がGBPを支援するが、経済へのストレスはかかっている
 4月のGBP相場は対USD、対JPYいずれも上昇した。米銀破綻問題への懸念が一巡し、リスクセンチメントが改善した。英国の3月分のCPI市場予想を上回り、前年比+10.1%と10%超の水準が継続した。米国を含め、インフレ率が鈍化傾向にあり、利上げ停止を模索する中央銀行が増えてくるなかで、BOEはインフレ抑制のために利上げを継続せざるを得ないと見られ、GBP買い要因に繋がった。
 一方、インフレ率の高止まりは長期的には経済へのストレスがかかり続けることを意味し、利上げの継続は徐々に景気ヘネガティブに作用していこう。米銀破綻問題の米国外への波及は今のところ限定的であるが、欧州でも今後は銀行と信態度が厳格化していく可能性はある。FRBの利上げ停止が見え始めるなかで、当面は対USDでGBPは底堅く推移しそうであるが、ここからの上値も限定的であろう。一方、日銀の次回会合は6月である、日銀の政策変更については一旦市場の関心から外れやすい。対JPYでは堅調な推移が続くだろう。

豪ドル・NZドル



豪ドル円	豪ドル円は下落	80.00 - 95.00円
NZドル円	NZドル円は下落	75.00 - 90.00円

RBNZは利上げ幅減速を見込む。世界景気減速懸念も引き続き重石
 3月のオセアニア通貨はAUD、NZDいずれももみ合いとなった。月初のRBA理事会では利上げを見送り、AUDが下落。翌日のRBNZは利上げ幅の減速を見込んでいた市場の予想に反して、0.50%の大幅利上げを継続したが、市場ではむしろ景気後退へ繋がる懸念も生じ年内利下げ観測も台頭している。OPECの減産で上昇していたコモディティ価格が下落に転じたことも重石となった。
 5月もRBA、RBNZ双方の理事会が開かれる。現時点でRBAは引き続き利上げ見送り、RBNZは0.25%の利上げが織り込まれている。4月はサプライズ的な大幅利上げとなったRBNZだが、既に政策金利は5.25%に達し、主要国では最高レベルとなっている。今後、利上げ幅の減速、利上げ停止へ向かっていく可能性は高いだろう。両国とも前年比のインフレ率は漸く鈍化の兆しが見え始めており、RBAは利上げの見送りを続けるだろう。グローバルに景気後退への懸念が高まっており、世界景気に敏感なオセアニア通貨には下落圧力がかかりやすいだろう。

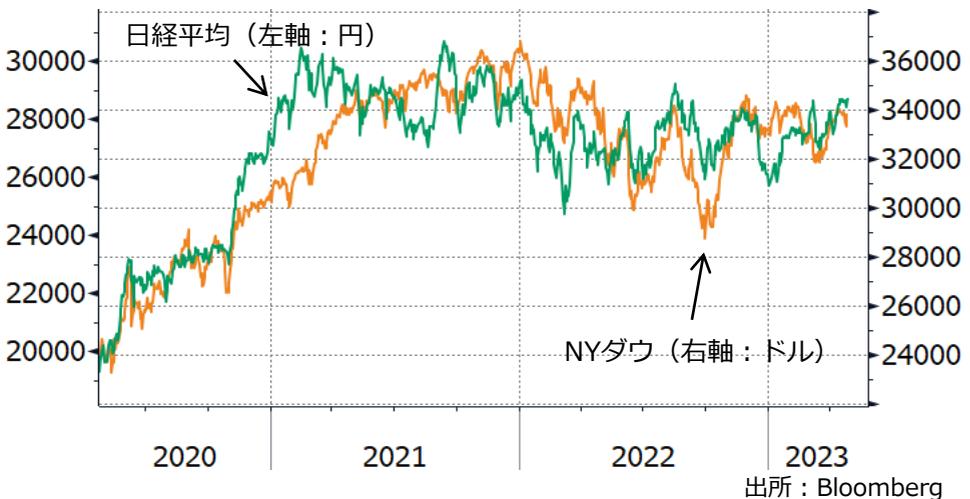
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2023年5月号)

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株式見通し



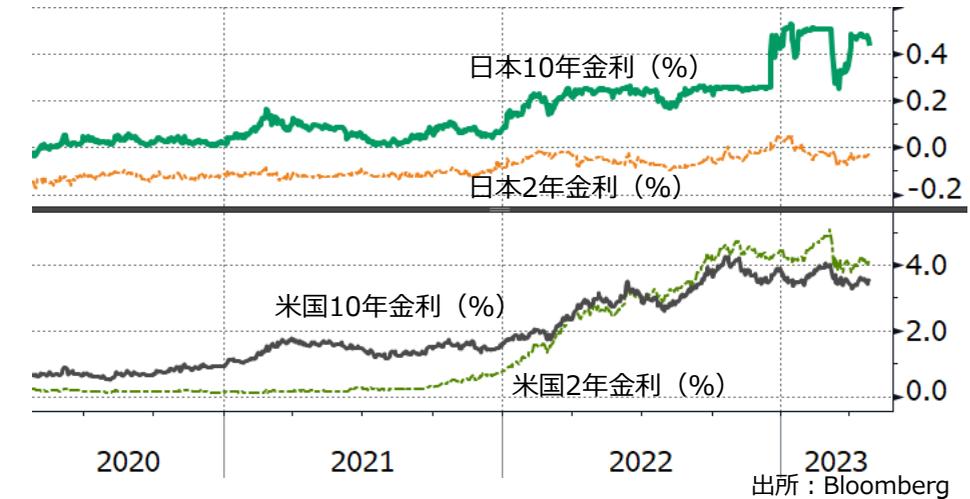
日経平均 日経平均は横ばい **26,000 - 29,000円**

底堅い展開が見込まれるが、高値警戒感から上値も限定的
 4月の日経平均は月初に下落する場面もあったものの、その後は米国の景気回復期待や円安の進行、著名投資家による投資期待等から年初来高値を付ける場面もあった。今月の日経平均は、金融不安が煽る中でFRB・ECBの政策判断及び今後の利上げの方向性を見極めつつ、引き続き底堅い展開を予想する。一方、年初来高値を更新するなど高値警戒感も熾りやすいことから上値も限定的と見られ、横ばい圏での推移を見込む。

NYダウ ダウは上昇 **32,000 - 35,000ドル**

FRBの利上げ打ち止め観測に期待も、懸念も煽る
 月初開催されるFOMCでは、金融不安や先行きの景気楽観論の後退から利上げ打ち止め観測も生じており、利上げ打ち止めの示唆があれば当面の底堅い展開が見込まれる。一方で引き続き金融不安を巡る材料に注意が必要な他、利上げの累積的な影響や債務上限問題等懸念材料も煽る中では上値追いも限定的となろう。

長期金利見通し



日本国債10年 金利は低下 **0.38 - 0.48%**

日銀新体制は緩和継続路線だが米金利上昇と円安に注意
 4月の会合では主要な金融政策を据え置き、1年から1年半の期間をかけた多角的レビューの開始を発表した。検証期間中の政策変更は不可能ではないだろうが、可能性は低下しただろう。当面、日銀の政策変更を材料とした国内金利上昇圧力は低下しそうだ。足元では米銀破綻問題への懸念が再燃しており、FRBの利上げも最終局面と見られる。グローバルに金利上昇が生じづらい環境となるなかで、国内でも金利低下を予想する。

米国債10年 金利は低下 **3.00 - 4.00%**

FRBは今月で利上げを停止、金融環境への懸念事項は多く、金利上昇にくい
 4月の米長期金利は小幅に上昇した。3月に発生した米銀破綻による混乱が一巡し、FRBによる5月FOMCでの利上げ観測が再び高まったことが背景。ただし経済指標が市場予想を下回る場面が増え、物価上昇率も鈍化傾向にあることから、先行きの利下げ観測は根強く、金利上昇幅は限定的。商業用不動産を巡る懸念や、今度予想される銀行の貸出態度厳格化も、経済への下押し圧力となろう。FRBの利上げ打ち止め感が強まれば長期金利は低下へ向かう。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2023年5月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		4/27		4月の相場推移		5月の予想	解説
中国	人民元/円	19.33	➡	18.98~19.60	➡	18.90~19.50	4月のドル人民元はもみ合いの展開が続き、月末にかけては米中関係の緊張による中国株売りにつれて元安となった。5月は人民元の反発を予想。米中関係は引き続きネガティブ材料であるが、中国景気回復期待やASEANなどの新興国向け輸出が底堅く一定の貿易黒字が維持できることが人民元の支えとなる。緩和期待で低下した中国金利も反動で上昇しやすいとみておりサポート材料に。
	ドル/人民元	6.930	➡	6.83~6.95	➡	6.80~7.00	
タイ	バーツ/円	3.927	➡	3.85~3.93	➡	3.85~3.95	バーツはタイ中銀のタカ派姿勢や観光業の回復で4月は堅調に推移、5月もサービス収支の改善等から堅調さは続く予想。金融政策面では5月末のタイ中銀会合では利上げ継続が予想される。今回での利上げ打ち止めを示唆する可能性があるが、米国FRBも利上げの終局が見えておりバーツ安要因とはならないだろう。5/14の総選挙前後に乱高下するリスクに要注意。
	ドル/バーツ	34.14	➡	33.84~35.52	➡	33.5~34.5	
インドネシア	100ルピア/円	0.911	➡	0.875~0.911	➡	0.88~0.94	ルピアは海外からのインドネシア債購入フロー等に支えられ堅調な推移が続く。インドネシア中銀は政策金利を4会合連続で据え置くなか、5月の会合でも金融政策の現状維持が見込まれる。安定的な金融政策と高金利を好感する債券買いフローは継続し、ルピアがサポートされる展開は続くとみる。輸出企業収益にかかる資金移動制限による国内外貨の増加もルピアの好材料とされやすい。
	ドル/ルピア	14,703	➡	14,645~15,013	➡	14,650~14,850	
インド	ルピー/円	1.638	➡	1.57~1.68	➡	1.58~1.68	堅調なインド株市況が支えとなりルピーは堅調に推移。先行きも良好な景気状況、インド株への資金流入、直接投資の増加で好材料で5月もルピー高地合い継続を見込む。ただし、4月のインド中銀会合では市場予想に反して政策金利が据え置かれ、利上げサイクル終了の可能性が意識される。貿易赤字の継続も減価材料であり、ルピー高の進行ペースは緩やかになる可能性が高いとみる。
	ドル/ルピー	81.84	➡	81.64~82.47	➡	81.50~82.50	
韓国	100ウォン/円	10.013	➡	9.92~10.31	➡	9.70~10.10	4月のウォン相場は、金融政策面で韓国中銀がタカ派姿勢を維持するなかでも、不動産価格の下落やインフレ鈍化で市場の利下げ期待が強まり、軟調に推移した。5月の韓国中銀会合では政策金利の据え置きが予想されるほか、半導体輸出の低迷や不動産市場への懸念が引き続き大きなネガティブ材料となる。朝鮮半島をめぐる緊張感の強まりも重しとなり、ウォン安地合いの継続が予想される。
	ドル/ウォン	1,338	➡	1,295~1,343	➡	1,300~1,350	

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



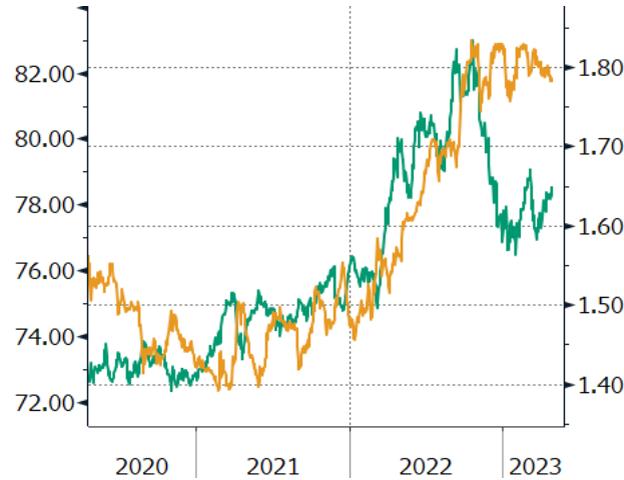
りそな マーケットフラッシュマンズリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2023年5月号)

◆ 新興国通貨チャート

— 人民元・円 (右軸) — ドル・人民元 (左軸)



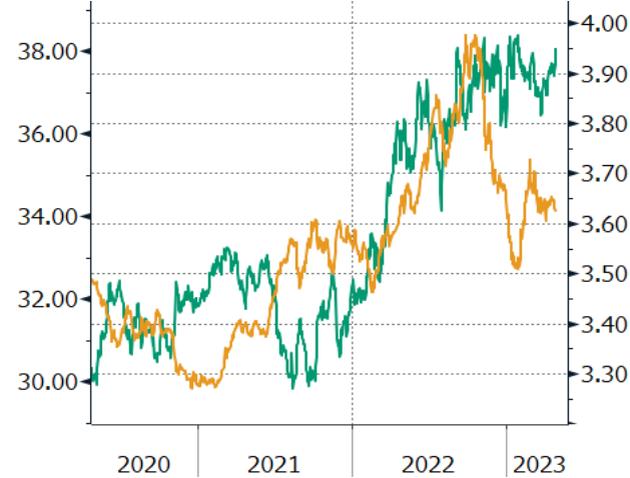
— ルピー・円 (右軸) — ドル・ルピー (左軸)



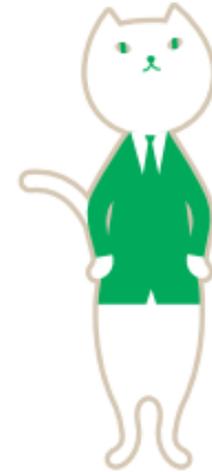
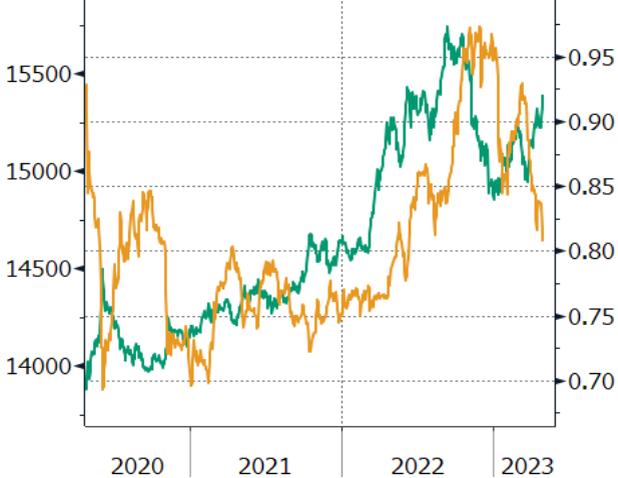
— ウォン・円 (右軸) — ドル・ウォン (左軸)



— バーツ・円 (右軸) — ドル・バーツ (左軸)



— ルピア・円 (右軸) — ドル・ルピア (左軸)



◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2023年5月号)

◆ 年間為替見通し

		2023年			2024年	ポイント
		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
ドル円	レンジ	115~140	115~140	110~135	110~135	FRBは4-6月に利上げ停止へ。その後、金融システム不安や米利下げ期待が高まるにつれ上値は重くなる。
	期末値	130	130	125	120	
ユーロドル	レンジ	0.90~1.15	0.90~1.15	0.90~1.15	0.90~1.15	足元の景況感の改善が見られるが、先行きの懸念は残る。年後半は欧米ともに利上げ停止・利下げが意識され、対USDでは揉み合い、対JPYでは上値が重くなる。
	期末値	1.05	1.05	1.00	1.05	
ユーロ円	レンジ	125~155	120~150	115~145	115~145	スナク首相の下で混乱した経済や市場の立て直しを図るが、インフレは高止まりしやすく、ファンダメンタルズ面での不安要素は残る。BOE内部でも見解の乖離見られ、経済・金融政策の不透明感から、徐々に上値が重くなる。
	期末値	137	137	125	126	
ポンドドル	レンジ	1.00~1.30	1.00~1.30	1.00~1.30	1.00~1.30	景気回復を見込んだ中国資産への資金流入やFRBが徐々に利上げ打ち止めに向かいドル安人民元高方向。年末に中国株高一服などから人民元高は一部巻き戻しが入る。
	期末値	1.15	1.10	1.10	1.20	
ポンド円	レンジ	130~160	125~155	120~150	125~155	中国の景気回復の恩恵を受け底堅く推移。金融不安から景気後退懸念に繋がるかがリスク要因。
	期末値	150	143	138	138	
ドル人民元	レンジ	6.50~7.00	6.40~6.70	6.50~6.80	6.40~6.70	旅行需要回復から当面底堅く推移。年後半は日銀政策修正織り込みや欧米景気悪化で対円下落を予想。
	期末値	6.60	6.50	6.60	6.50	
人民元円	レンジ	16.55~21.54	17.16~21.88	16.18~20.77	16.42~21.09	
	期末値	19.70	20.00	18.94	18.46	
豪ドル円	レンジ	75~100	80~105	80~105	75~100	
	期末値	85	91	88	84	
タイバーツ円	レンジ	3.30~4.70	3.70~4.70	3.50~4.60	3.50~4.60	
	期末値	4.10	4.13	4.03	3.87	

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

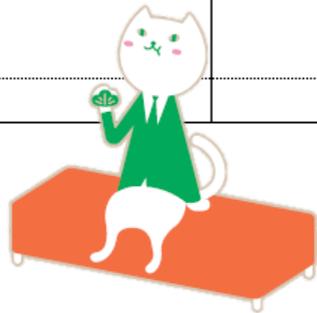


りそな マーケットフラッシュマンスリー (2023年5月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
5/1(月)		4月ISM製造業景況指数	
5/2(火)		3月製造業受注	(豪) 準備銀行理事会 (中) 4月製造業PMI
5/3(水)	(憲法記念日)	4月ADP雇用統計 4月ISM非製造業景況指数 FOMC (結果発表)	
5/4(木)	(みどりの日)	3月貿易収支	(欧) ECB定例理事会
5/5(金)	(こどもの日)	4月雇用統計	
5/8(月)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (3/9~10開催分)		(中) 4月貿易統計
5/9(火)	10年債入札 3月家計調査 3月毎月勤労統計 (速報)	3年債入札	
5/10(水)		10年債入札 4月CPI	
5/11(木)	30年債入札 4月景気ウォッチャー調査	30年債入札 4月PPI	(英) BOE金融政策委員会 (中) 4月CPI G7財務省・中央銀行総裁会議 (新潟、~13日)
5/12(金)			



	日本	米国	その他
5/15(月)	4月企業物価指数 5年債入札	5月NY連銀製造業景況指数	
5/16(火)	1-3月期GDP (一次速報値)	4月小売売上高	(欧) 1-3月期GDP (速報値) (中) 4月生産・小売・投資 (独) 5月ZEW景況指数
5/17(水)	20年債入札	20年債入札 4月住宅着工・許可件数	
5/18(木)	4月貿易統計	4月中古住宅販売 5月フィラデルフィア連銀製造業景況指数	
5/19(金)	4月消費者物価指数		G7首脳会議 (広島、~21日)
5/22(月)	3月機械受注		
5/23(火)		2年債入札 4月新築住宅販売	(欧) 5月PMI (速報値)
5/24(水)		5年債入札 FOMC議事要旨	(独) 5月IFO企業景況感指数
5/25(木)	40年債入札	1-3月期GDP (改定値) 7年債入札	
5/26(金)		4月個人所得・消費支出	
5/29(月)		(戦没者祈念日)	
5/30(火)	2年債入札 4月労働力調査	5月消費者信頼感指数	
5/31(水)	4月鉱工業生産		(中) 5月PMI

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2023年5月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【3/31~4/6】

◎ 3月の製造業PMI、3カ月連続節目超え

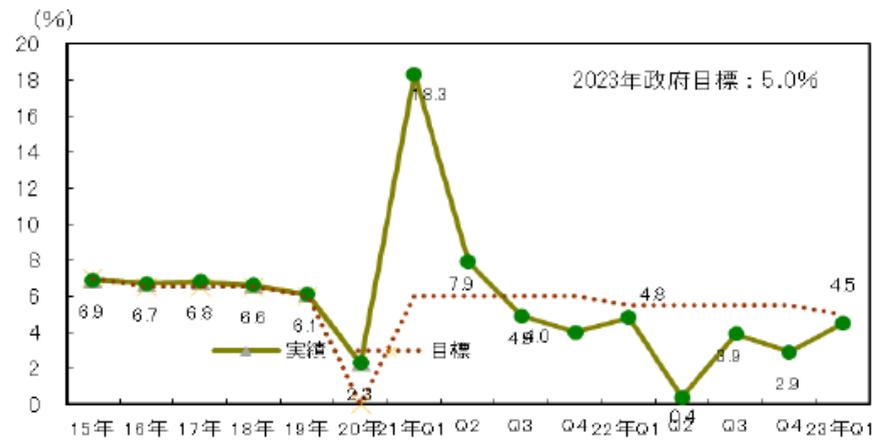
中国国家統計局と中国物流購買連合会は3月31日、2023年3月の製造業の景況感を示す製造業購買担当者指数（PMI）が51.9だったと発表した。先月から0.7ポイント下落したが、好不況を判断する節目の50を3カ月連続で上回った。新型コロナウイルス対策の大幅緩和を受けて、企業活動の正常化が進んでいるものの、より踏み込んだ政策などの支援が必要との見方だ。中国政府の製造業PMIは3,200社を対象に生産状況や受注状況を前月との比較で尋ねたデータを基に算出している。

【4/7~4/13】

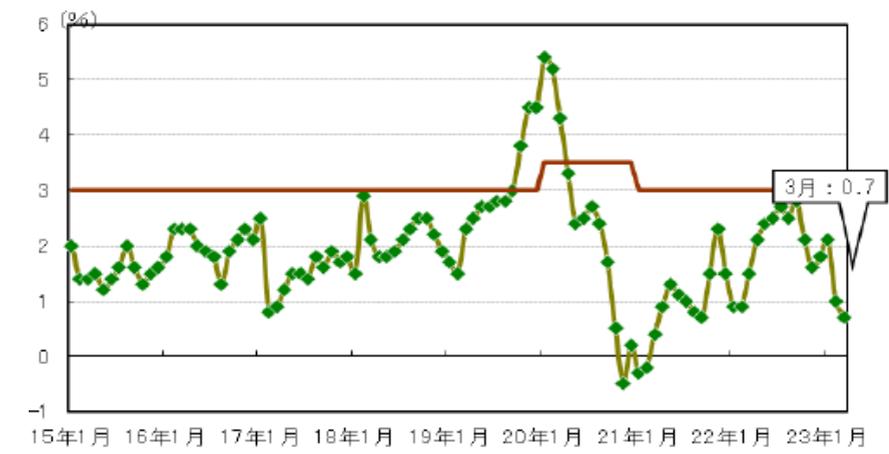
◎ 3月の人民元貸出、増加額は3.89兆元

中国人民銀行（中央銀行）が11日発表した金融統計によると、全国の金融機関による2023年3月の人民元建て貸出増加額は3兆8,900億元（約75兆2,300億円）だった。前年同月を7,497億元上回った。第一四半期は10兆6,000億元増え、前年同期を2兆2700億元上回った。3月末時点の人民元建て貸出残高は前年同月末比11.8%増の225兆4,500億元。増加率は前月末より0.2ポイント、前年同月末より0.3ポイント拡大した。人民元建て、外貨建てを合わせた貸出残高は11.1%増の230兆6,600億元。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2023年5月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【4/14~4/20】

◎ MLFで1700億元供給、金利2.75%据え置き

中国人民銀行（中央銀行）は17日、中期流動性ファシリティー（MLF）による銀行への貸出を通じて、1700億元（約3兆3,000億円）を市場に供給する公開市場操作（オペ）を実施した。金利は2.75%で据え置いた。200億元の7日物リバースレポも実施した。金利は2.00%に据え置いた。MLFは貸出基礎金利（ローンプライムレート、LPR）算出の基礎となる金融政策ツール。MLF金利の動向はLPRに反映されることから、20日に発表予定のLPRも据え置きとなる可能性が高い。

◎ 中国1QのGDP 4.5%に回復

中国国家統計局は18日、2023年第一四半期（1~3月）の実質国内総生産（GDP、速報値）の成長率が前年同期比4.5%だったと発表した。四半期の成長率としては22年第2四半期以降の最高で、22年第4四半期からは1.6ポイント拡大した。第一四半期のGDPは28兆4,997億元（約557兆円）前四半期比では2.2%増えた。政府が昨年未だに新型コロナウィルス対策を大幅に緩和したことで、国内の経済活動が活発化。中でも、消費の回復が鮮明化した。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2022/5	2022/6	2022/7	2022/8	2022/9	2022/10	2022/11	2022/12	2023/1	2023/2	2023/3
実質GDP成長率	%	-	0.4	-	-	3.9	-	-	2.9	-	-	4.5
消費者物価上昇率	%	2.1	2.5	2.7	2.5	2.8	2.1	1.6	1.8	2.1	1.0	0.7
都市部調査失業率	%	5.9	5.5	5.4	5.3	5.5	5.5	5.7	5.5	5.5	5.6	5.3
輸出額	10億ドル	306.4	328.1	332.3	314.9	321.5	297.9	295.0	305.6	292.2	214.0	315.6
輸入額	10億ドル	228.0	230.7	229.6	234.0	237.3	213.1	226.2	228.3	192.5	197.3	227.4
経常収支	100万ドル	-	159,103	-	-	298,739	-	-	401,855	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,127.8	3,071.3	3,104.1	3,054.9	3,029.0	3,052.4	3,117.5	3,127.7	3,184.5	3,133.2	3,183.9
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	6.71	6.70	6.73	6.80	7.02	7.21	7.17	6.98	6.79	6.84	6.89

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2023年5月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○パンダ飼育員、人気？

最近、あるニュースが目を引きました。「1日に最多280人が応募した「パンダ飼育員」の採用がゼロだった理由は？」というタイトルです。

タイトルを見ると、パンダ飼育員の採用条件はそんなに高いのかと思いますが内容を見ると実は逆です。

今回募集した場所は江蘇省溧陽市の南山竹海景勝地にあるパンダ館です。実際働いている飼育員の仕事をみれば、理由がわかると思います。

李さんという飼育員は早朝5時半には起き、自分は朝食を食べる暇もなく、パンダの朝食の準備を始めます。そしてパンダが朝食を食べ終わるとすぐに次のエサを準備をします。パンダが1日に食べる竹は約25キログラムにもなるため、飼育員たちは1日に何度も竹を補充しなければならず、また次は夜間パンダがエサを食べたり、休んだりする室内エリアの掃除を開始しなければいけません。

糞を掃除する前にはそれをじっくり観察するほか、そのうちの1つを両手で割って、細かく観察するという仕事もあります。両手で割って細かく観察するのは、寄生虫の有無をチェックするためということです。

夜でも、当直が必要で、飼育員は数時間おきに起きて巡回し、パンダの状態をチェックしなければなりません。もし竹がなくなると、すぐに補充しなければならないからです。この仕事内容を見ると、本当に肉体的にハードルが高いなと思います。

なので、仕事内容を分る応募者はほとんどが尻込みしてしまいます。中国の国宝の世話ができるのは本当に光栄だと思いますが、内容を分かれば実に大変です。多分多くの仕事は自分がやってみないと、その裏のつらさが分からないですね。

○ぼんやりエリアでぼんやりしたい

広東財経大学広州キャンパスの図書館が「ぼんやりエリア」を設置し、中国のネット上で検索のトレンド入りをしています。

多くの大学生が図書館でテスト勉強をした後、「ぼんやりエリア」で休憩し、リセットしているそうです。

また、「ぼんやりエリア」を見るためにわざわざやって来る学生もいるといえます。

当該図書館の王館長は「『ぼんやりエリア』を設置したのは、学生が勉強の合間にリラックスやリセットして、インスピレーションを得られるようにするための場所を提供しようという考えから」と説明しています。

このニュースを見て、学生だけでなく、社会人向けにも各会社でぼんやりエリアを設置してほしいなと思いました。

毎日、仕事や育児、生活に追われている社会人は息抜き、精神的にリラックスができるところがほしいなと思います。



◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2023年5月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆タイ中央銀行の2023年2月の経済報告によれば、国内経済が前月から継続して改善しているとの見方を示した。民間消費指数は前年同月比3.9%と拡大を続けている。耐久財の消費等が好調に推移した。特に、乗用車の販売台数が伸びた。サービス業も外国人観光客数の増加に伴い上向いた。民間投資指数は同0.6%増。設備投資では資本材輸入、国内機械販売、商用車登録台数の指数が改善したが、建設投資は横ばい。鉱工業生産指数は同2.7%減。前月の4.8%減から改善した。車両・トレーラー、コークス・精製石油製品、食品等の生産は拡大した一方、化学品、半導体、ハードディスクドライブ、ゴム・プラスチック製品等の生産は減少した。外国人観光客数は前月比1.1%減の211万3,600人とわずかに減少した。政府支出は中央政府の経常的経費と国営企業の投資支出が拡大した。

◆タイ商務省によると、2023年2月の輸出額は前年同月比4.7%減の223億7,630万米ドルだった。前年同月比で5カ月連続のマイナス成長だった。前年同月の輸出額が高かった反動や世界的な景気低迷が響いた。2023年1~2月の輸出額は前年同期比4.6%減の426億

2,580万米ドルだった。農産物・加工品の輸出は前年同月比3.6%増加した一方、主要工業製品は同6.2%減。減少した工業製品は鉄鋼・同製品（同12.9%減）、コンピューター・同部品（同22.9%減）、化学製品（同19.7%減）、ゴム製品（同3.6%減）等。一方、増加した工業製品は自動車・同部品（同3.6%増）、回路基板（同4.1%増）、電気製品・同部品（同11.5%）等。国別では、主要仕向け先は同5.9%減。うち米国向けの輸出額は同9.5%減の35億2,500万米ドルで最大。中国向けは同7.9%減の24億5,700万米ドル、日本向けは同2.5%減の20億4,300万米ドル。他に、ASEAN5カ国（同6.4%減）、南アジア（同9.4%減）、オーストラリア（同9.2%減）等も落ち込んだ。他方、欧州連合は同0.1%増とほぼ横ばいだった。また、中東（同23.8%増）、アフリカ（同11.2%増）、香港（同28.6%増）はそれぞれ好調だった。2月の輸入額は前年同月比1.1%増の234億8,970万米ドルで、貿易収支は11億1,340万米ドルの赤字となった。2月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル=34.05パーツで、前月の33.22パーツからパーツ安となった。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2022/5	2022/6	2022/7	2022/8	2022/9	2022/10	2022/11	2022/12	2023/1	2023/2	2023/3
実質GDP成長率	%	-	2.5	-	-	4.6	-	-	1.4	-	-	-
消費者物価上昇率	%	7.1	7.7	7.6	7.9	6.4	6.0	5.6	5.9	5.0	3.8	2.8
失業率	%	1.5	1.4	1.4	1.4	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	-
輸出額	100万ドル	25,506	26,508	23,629	23,633	24,919	21,772	22,308	21,719	20,250	22,376	-
輸入額	100万ドル	27,121	27,681	27,290	27,848	25,772	22,369	23,650	22,753	24,899	23,490	-
経常収支	100万ドル	-2,926	-3,080	-4,045	-3,588	-69	511	-551	967	-2,149	1,332	-
外貨準備高	10億ドル	230.0	222.3	220.0	215.0	199.4	201.9	210.7	216.6	225.5	217.4	224.5
主要政策金利	%	0.50	0.50	0.50	0.75	1.00	1.00	1.25	1.25	1.50	1.50	1.75
対ドル為替レート	パーツ	34.4	35.0	36.4	35.9	37.0	37.9	36.4	34.8	33.2	34.1	34.5

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レボ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



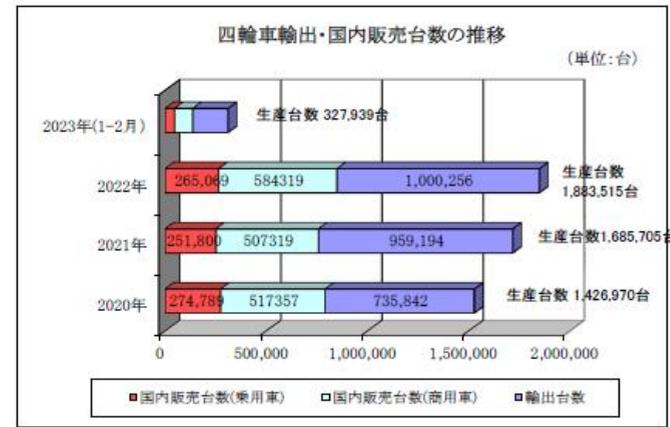
りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2023年5月号)

タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

出所:タイ工業連盟(FTI)

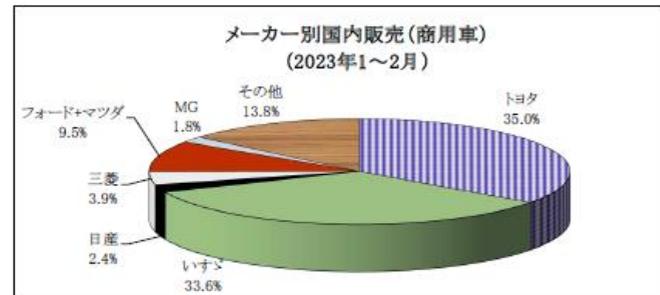
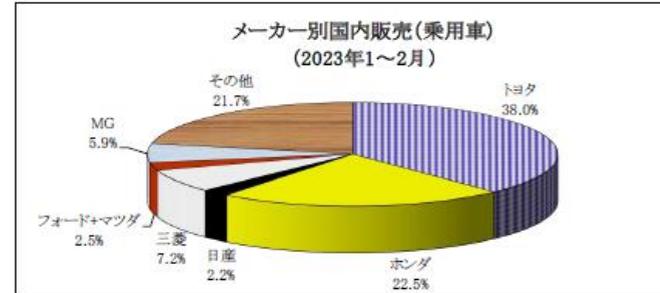
		2020年	2021年	2022年	2023年 (1-2月)	前年同期比 (%)	2月
【台数】 (台)							
四輪	生産台数						
	乗用車	542,437	599,844	600,839	115,064	132.7	59,040
	商用車	884,533	1,085,861	1,282,676	212,275	96.4	106,572
	合計	1,426,970	1,685,705	1,883,515	327,939	106.7	165,612
国内販売台数	乗用車	274,789	251,800	265,069	47,731	103.9	24,867
	商用車	517,357	507,319	584,319	89,399	91.2	46,684
	合計	792,146	759,119	849,388	137,130	95.3	71,551
輸出台数		735,842	959,194	1,000,256	175,311	117.4	88,525
二輪	生産台数	1,615,319	1,780,654	2,015,940	382,182	123.0	188,272
	国内販売台数	1,516,096	1,606,481	1,792,016	322,104	109.5	162,847
	輸出台数	727,152	965,967	1,034,840	165,158	93.3	77,584
【完成車輸出金額】 (百万円)							
四輪		410,912	561,147	619,348	107,473	121.7	54,802
二輪		85,802	75,985	73,729	12,895	101.2	6,561



【メーカー別国内販売台数】

出所:トヨタ自動車

		2020年	シェア (%)	2021年	シェア (%)	2022年	シェア (%)	2023年 (1-2月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	2月
トヨタ	乗用車	68,152	24.8	62,403	24.8	82,738	31.2	18,127	157.1	38.0	9,463
	商用車	176,164	34.1	177,320	35.0	206,071	35.3	31,281	87.9	35.0	16,149
	合計	244,316	30.8	239,723	31.6	288,809	34.0	49,408	104.8	36.0	25,612
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	181,194	35.0	184,160	36.3	212,491	36.4	30,026	84.3	33.6	15,375
	合計	181,194	22.9	184,160	24.3	212,491	25.0	30,026	84.3	21.9	15,375
ホンダ	乗用車	77,419	28.2	76,886	30.5	61,665	23.3	10,733	92.8	22.5	5,660
	商用車	15,622	3.0	11,806	2.3	21,177	3.6	5,043	124.7	5.6	3,045
	合計	93,041	11.7	88,692	11.7	82,842	9.8	15,776	101.0	11.5	8,705
日産	乗用車	27,120	9.9	19,790	7.9	10,933	4.1	1,064	36.2	2.2	557
	商用車	17,438	3.4	9,906	2.0	11,588	2.0	2,152	110.4	2.4	959
	合計	44,558	5.6	29,696	3.9	22,521	2.7	3,216	66.7	2.3	1,516
三菱	乗用車	22,363	8.1	18,456	7.3	21,157	8.0	3,429	92.0	7.2	1,873
	商用車	35,046	6.8	28,732	5.7	29,228	5.0	3,461	60.6	3.9	1,733
	合計	57,409	7.2	47,188	6.2	50,385	5.9	6,890	73.0	5.0	3,606
その他	乗用車	79,735	29.0	74,265	29.5	88,576	33.4	14,378	88.9	65.1	7,314
	商用車	91,893	17.7	95,395	18.7	103,764	17.7	17,436	115.8	19.5	9,423
	合計	171,628	21.8	169,660	22.3	192,340	22.6	31,814	101.9	23.3	16,737
合計	乗用車	274,789	100.0	251,800	100.0	265,069	100.0	47,731	103.9	135.0	24,867
	商用車	517,357	100.0	507,319	100.0	584,319	100.0	89,399	91.2	100.0	46,684
	合計	792,146	100.0	759,119	100.0	849,388	100.0	137,130	96.3	100.0	71,551



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。